

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-01	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	文化振興事務費	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	安藤
							内線
							2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-01-02	事務費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成 63年度		根拠	西日暮里ギャラリー運営要綱			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区芸術文化事業共催要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画			
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	01	芸術・文化の振興				
目的	区民が芸術文化に触れる機会の拡充を図るとともに、地域の文化資源の発掘と積極的な情報発信を進める。						
対象者等	区民及び区外からの訪問者						
内容	①芸術文化振興プラン：プランに掲げた事項について、着実に推進する。 ②ディスカバーあらかわ：一般公募した区内の風景・風物をテーマとした作品を展示。優秀な作品に荒川区長賞(1点)、荒川区長奨励賞(3点)、社団法人太平洋美術会会長賞(2点)、荒川区美術連盟理事長賞(2点)を授与。 ③西日暮里ギャラリー：西日暮里駅高架下の展示スペースを希望者に貸出。（6か所、最長2週間） ④太平洋展：太平洋美術会が主催する太平洋展で優秀な作品2点に区長賞を授与。 ⑤JOBANアートライン協議会：常磐線沿線地域の活性化を図っていくことを目的とした協議会で、年に一度アートワークショップを開催。 ⑥芸術文化振興基金：基金を活用し、未来を担う子どもたちへの良質な芸術文化を提供するとともに、区の芸術文化を発展・継承させる。						
経過	①芸術文化振興プラン：「幸福実感都市 あらかわ」を芸術文化の側面から形成していくため、平成21年6月に策定、平成26年6月に改定。 ②ディスカバーあらかわ：平成7年度より太平洋美術会の協力で実施。17年度から荒川区美術連盟の協力も得て一般公募形式とし、広く作品の募集を行っている。平成19年度からは、絵画以外に版画・染織・彫刻の出品も可とした。 ③西日暮里ギャラリー：平成9年度に道路課が高架下の修景事業として設置。維持管理は道路公園課、運営は文化交流推進課。 ④太平洋展：平成9年度から、太平洋展にて荒川区長賞を授与している。 ⑤JOBANアートライン協議会：H18年協議会設立総会開催。 ⑥芸術文化振興基金：H28創設						
必要性	芸術文化活動は、人間の内面に対する探求を行うものである。芸術を鑑賞したり、自ら芸術文化活動を行うことは、区民の生活をより豊かにすることを可能にするものである。こうした地域の文化振興への取り組みは、区の重要な役割である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） ①推進会議の開催。②一般公募したものを展示し、優秀な作品に賞を授与。③申請を受け内容を審査。④太平洋展の初日に授与。⑤負担金を支出。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額		4,638	4,157	4,846	6,926	5,013	3,909	3,963
①決算額（28年度は見込み）		4,128	3,804	4,532	6,349	4,688	3,637	3,963
②人件費等		2,180	2,964	2,478	6,654	5,794	5,618	
③減価償却費		726	1,089	968	2,704	2,438	2,491	
【事務分担当量】（%）		25	35	30	80	75	73	
合計（①+②+③）		7,034	7,857	7,978	15,707	12,920	11,746	3,963
特定財源の推移	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	7,034	7,857	7,978	15,707	12,920	11,746	3,963
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	太平洋展来場者数	18,269	22,824	19,513	21,412	25,337	21,633	24,042
	太平洋展出品作品数	1003	761	671	941	979	829	896
	西日暮里ギャラリー展示件数	11	20	20	23	20	21	25
	ディスカバーあらかわ応募点数	99	117	125	104	103	114	100

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	非常勤職員報酬	2,553	報酬	非常勤職員報酬	2,553	報酬	非常勤職員報酬	2,572
共済費	非常勤社会保険料	383	共済費	非常勤社会保険料	386	共済費	非常勤社会保険料	391
報償費	推進会議・起草委員会謝礼	256	旅費	近接地内旅費	65	報償費	芸文プラン推進会議謝礼	100
需用費	区長賞記念品、事務用品、印刷代外	831	需用費	区長賞記念品、事務用品、印刷代外	391	旅費	近接地内旅費・特別旅費	119
役務費	筆耕翻訳料	58	役務費	筆耕翻訳料	34	需用費	区長賞記念品、事務用品、印刷代外	482
使用料等	ディスカバー附帯設備	439	使用料等	ディスカバー附帯設備	158	役務費	筆耕翻訳料、ハガキ	50
その他	旅費・JOBANアトライン	168	負担金等	JOBANアトライン負担金	50	その他	ディスカバー附帯設備、負担金	249

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① ディスカバーあらかわ区民応募率 (%)	49.1	51.0	50.9	52.0	52.0	
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	① ディスカバーあらかわの平成27年度の区民応募率は前年比で微減となったが、区民の応募数は増加している。引き続き、区民の応募が増えるよう周知を行う。
	（実施 0 区 未実施 0 区 不明 22 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	「ディスカバーあらかわ」・「西日暮里ギャラリー」の区民応募率・利用率を向上させるため、区報などで積極的にPRする。	「ディスカバーあらかわ」・「西日暮里ギャラリー」の区民応募率・利用率を向上させるため、区報などで積極的に周知を行った。	区民応募率・利用率を向上させるため、引き続き区報などで積極的に周知する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	地域の文化振興への取り組みは、区の重要な役割である。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-02	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	地域活動支援事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	高田
				内線	2521		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-01-03	地域活動支援事業					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成		19年度	根拠	荒川区地域活動支援事業補助金交付要綱		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準			計画区分	●計画 ○非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅶ 計画推進のために					
	政策	13 区民の主体的な区政参画と連携強化					
	施策	01 区民参画・協働の推進					
目的	1 豊かで住みよい地域社会を築くため、区民や区民団体等の地域活動を支援し、区政参画の機会を拡大するとともに、区民や区内団体等との協働の促進を図る。 2 職を離れた団塊世代の方々が地域の活動や区政運営に積極的に参画し、地域の人的資源として活躍できるように支援する。						
対象者等	区民団体、定年退職後の区民、地域活動に関心のある区民等						
内容	1 地域活動サロン「ふらっと・フラット」の運営補助 （運営）荒川区社会福祉協議会（場所）生涯学習センター1階 （開所日）月～金：13:00～19:00（第1・3水金は13:00～21:00 祝祭日を除く） （内容）・地域活動の拠点となるサロンの運営、情報提供、相談、コーディネート 2 コミュニティ活性化推進事業の支援 ・地域のコミュニティ活動が活性化するよう、荒川区内の団体が区民を対象として行う事業に対し支援を行う。						
経過	平成19年度	地域活動サロン「ふらっと・フラット」開設 団塊世代活動支援コーナー開設					
	平成20年度	南千住図書館における団塊世代の図書特集の開催（1～3月） 関係機関連絡会の開催（2回）					
	平成21年度	区報「地域活動特集号」の発行 関係機関連絡会の開催					
	平成22年度	職員向け協働ガイドラインの検討					
	平成25年度	職員向け協働ガイドラインの策定					
	平成27年度	事業を文化交流推進課に移管					
必要性	多様化する区民ニーズに的確に応える区政運営のためには、区民の区政参画の機会拡大はもとより、区民や区内団体等との協働の促進が不可欠である。また、職を離れた団塊世代を中心とした区民の地域活動の支援は、地域の活性化につながることから、その必要性は高い。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） ふらっと・フラット：社会福祉協議会に対する運営費補助						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		予算額	13,859	11,491	7,996	7,246	6,663	6,507
①決算額（28年度は見込み）		8,762	9,269	6,986	6,558	6,428	6,401	6,447
②人件費等		5,232	1,270	2,891	1,663	773	385	
③減価償却費		1,743	467	1,129	676	325	171	
【事務分担量】（%）		60	15	35	20	10	5	
合計（①+②+③）		15,737	11,006	11,006	8,897	7,526	6,957	6,447
特定財源	国							
	都	高齢社会対策区市町村包括補助事業	5,277			3,179	3,197	3,197
	その他							
	一般財源		10,460	11,006	11,006	8,897	4,347	3,760
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	ふらっと・フラットの事業数（回数）	21	40	25	26	27	29	27

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	地域活動支援事業補助金	6,238	負担金補助等	地域活動支援事業補助金	6,341	負担金補助等	地域活動支援事業補助金	6,395
償還金利子等	補助金返還額	190	償還金利子等	補助金返還額	60	報償費	協働研修費	52

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① ふらっと.フラットの利用者数(人)	2234	2273	2067	2350	2350	
	②						
	③						

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域力を高め、地域活動の裾野を広げていくために、ふらっと.フラットにより芽生えた地域活動の動きをさらに支援し、地域活動の担い手を増やしていく必要がある。</li> <li>より効果的に地域活動の支援等を行っていくため、適切な支援体制について検討する必要がある。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 10 区 未実施 12 区 不明 0 区） ふらっと.フラットに類似したコミュニティサロンを開設する区の数

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	ふらっと.フラットがより幅広い層の区民や団体の地域活動拠点となるように、運営支援を行う。	ふらっと.フラットがより幅広い層の区民や団体の地域活動拠点となるよう、荒川区社会福祉協議会と協議を実施した。	引き続きふらっと.フラットが幅広い層の区民や団体の地域活動拠点となるように、情報提供を行う。
②	関連部署と連携を図りながら効果的に地域活動を行えるように、運営支援を行う。	荒川区社会福祉協議会との協議を実施した。	引き続き関連部署と連携を図りながら、効果的な地域活動を行えるように、情報提供を行う。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	地域活動を通じた協働の推進、コミュニティづくりのため、支援を継続していく。

況 議 会 要 旨 問 状	H20・四定：団塊世代の参画の推進について H22・一定：シルバーパワーの活用について H22・二定：新しい公共について
---------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-03	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	国内都市交流事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	榎
				内線	2522		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-02-01	国内都市交流事業					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		56年度	根拠	荒川区自然体験を通じた青少年健全育成活動事業補助金交付要綱		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準			計画区分	●計画 ○非計画		
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	02	国内・海外都市との交流の推進				
目的	生活環境や地域文化の異なる地域の人々との交流を深めることにより、区民に豊かな自然とのふれあいの場を提供し、区民の心の豊かさと相互の町の活性化を図る。平成17年11月に策定した「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」に基づき、国内の都市との交流を積極的に推進することにより、荒川区の魅力と活力を高め、より豊かな区民生活の実現をめざす。						
対象者等	区民						
内容	H27年度の主な交流事業 ★：「27年度川の手荒川まつり」出展都市 ★秩父市：春まつり ★北杜市：北杜ふるさと祭りに出展者派遣 ★大多喜町：大多喜お城まつり参加（天王太鼓つくも会を派遣）★鴨川市：シーフェスタinKAMOGAWAIに参加、春まつり ★上越市：越後吉川酒まつりに出展者派遣、副区長出席 ★福島市：ミスピーチトップセールス来庁、荒川区民を対象としたツアー実施、秋・春まつり ★桑折町 ★石川町：伝統技術展・秋まつり他区内イベントに多数出展 ★村上市 ★釜石市：釜石冬の味覚まつりに出展者派遣、釜石市へ職員を派遣、秋まつり ★射水市：秋・春まつり出展 ★鮭川村：鮭の里親事業、春まつり ★三条市 ★福井県：水仙娘が来庁、手打ちそば教室実施、春まつり ★潮来市：春まつり ★二本松市 ★小野町 ★つくば市：まつりつくばに出展社派遣、梅娘区長表敬訪問、秋・春まつり ★津南町 ★大垣市：第37回荒川区産業展出展等 ★米沢市：春まつり ★広尾町 ★南アルプス市 ★佐渡市：あらかわ佐渡おけさ祭り、秋まつり 真室川町：秋・春まつり みなべ町：秋まつり						
経過	※交流開始順に記載、（ ）内は提携・協定締結年度 秩父市(旧荒川村)：S56姉妹提携、H7防災協定・21再調印 北杜市(旧高根町)：昭和58年 大多喜町：昭和60年(H7友好都市提携・防災協定) 鴨川市：昭和62年(H3友好都市提携・H7防災協定) 上越市(旧吉川町)：昭和62年(H7防災協定) 福島市：平成6年(H28年2月友好都市協定、H18防災協定) 桑折町：平成6年(H23防災協定) 石川町：平成6年(H8防災協定) 村上市(旧荒川町)：平成8年 釜石市：平成9年(H11防災協定) 射水市(旧下村)：平成11年(H26防災協定) 鮭川村：平成15年(H24防災協定) 三条市：平成15年 福井県：平成16年 潮来市：平成16年 つがる市：平成16年 二本松市(旧東和町)：平成17年 小野町：平成17年 つくば市：平成18年(H20年5月友好都市提携、H24防災協定) 津南町：平成19年 大垣市：平成19年(H23防災協定) 米沢市：平成20年(産業連携協定締結) 広尾町：平成21年 成田市：平成22年 印西市：平成22年 南アルプス市：平成24年 佐渡市：平成26年 真室川町：平成27年 みなべ町：平成27年						
必要性	国内の都市との交流を積極的に推進し、荒川区の魅力と活力を高めることにより、より豊かな区民生活の実現が期待できる。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 一般財団法人東京城北勤労者サービスセンターが実施している交流都市ツアーに対して、平成27年度まで補助金を支出。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額		2,136	1,427	9,832	1,471	1,272	1,976	4,392
①決算額（28年度は見込み）		1,601	837	9,741	1,194	1,155	1,612	4,392
②人件費等		4,360	6,098	5,535	7,485	5,021	3,078	
③減価償却費		1,453	2,239	2,162	3,042	2,113	1,365	
【事務分担量】（%）		50	72	67	90	65	40	
合計（①+②+③）		7,414	9,174	17,438	11,721	8,289	6,055	4,392
特定財源	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	7,414	9,174	17,438	11,721	8,289	6,055	4,392
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	交流都市数	25	25	26	26	28	29	29

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	まつりの出店経費	320	報償費	まつりの出展経費	256	報償費	まつりの出展経費	377
旅費	交流事業調整、まつり参加	152	旅費	交流事業調整、まつり参加	229	旅費	交流事業調整、まつり参加	289
需用費	交流都市等訪問時贈い、土産等	360	需用費	交流都市等訪問時贈い、土産等	689	需用費	交流都市等訪問時贈い、土産等	936
負担金補助等	交流事業補助	323	委託料	福島市友好都市協定締結式	83	委託料	国内都市訪問ツアー	2,200
			使用料等	福島市友好都市協定締結式	18	使用料等	バス借上げ	160
			負担金補助等	交流事業補助	338	負担金補助等	自然体験補助金	430

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	交流事業実施都市数	21	22	25	25	25	
②							
③							

（問題点・課題 指標分析）	①全国連携の一環として、新たな地方都市とも連携した事業について検討を行う必要がある。 ②一般財団法人東京城北勤労者サービスセンターにおいて実施していた区民ツアーが平成27年度に終了するにあたり、代替の事業を企画検討する必要がある。
	他区の実況 (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	各交流都市と区民相互にとってメリットの大きい交流内容を検討する。	商店街における交流都市の物産販売など、地域の活性化につながるイベントを実施した。	他課の事業においても積極的に交流都市のブースを誘致し、区民に交流都市の物産を提供する。
②	区民参加型のツアーや、区民同士の相互交流が可能な事業の実施に向けて、各都市と調整を行う。	福島市への区民ツアーを実施し、交流都市の魅力を区民にPRした。	訪問バスツアーなど、各都市の魅力を実感し、その後の交流に結びつくような事業を企画・検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
重点的に推進	重点的に推進	生活環境や地域文化の異なる地域と交流することにより、まちの魅力と活力を高める。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-04	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	国際交流協会補助	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	白石
							2524
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-03-01	国際交流協会補助					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成		5年度	根拠	荒川区国際交流協会補助金交付要綱		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等	設立趣意書		
実施基準	○法令基準内		○都基準内	●区独自基準	計画区分	○計画	●非計画
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	02	国内・海外都市との交流の推進				
目的	区民の国際交流活動の拠点として国際交流事業を推進し、外国都市との友好親善と区民の国際理解を深めながら荒川区の国際化を図り、荒川区を世界に開かれた夢のあるまちとすることを目的とする。（協会会則第3条）						
対象者等	荒川区国際交流協会 設立 平成5年10月21日 組織 理事12人、事務局5人（区職員兼務）、監事2人 会員 賛助会員（163名）、協力会員（536人） ※平成28年4月1日現在						
内容	≪荒川区国際交流協会の主な事業≫ ※（ ）内は開始年度 ○在住外国人支援事業 日本語教室（13年度：5～12年度では区事業）…年間132回（66回×2コース） ○国際理解・啓発事業 日本語サロン（10年度）…週1回×2コース、世界の料理教室（24年度）、広報宣伝活動…協会便り（年1回発行）事務局便り（月1回発行）、ライフサポートニュース（年1回発行）、産業展出版 ○区民相互の交流事業 川の手荒川まつり出展、日本語スピーチコンテスト（7年度）、外国人のための防災講座、国際交流バスハイク（6年度）、茶道教室（13年度）、華道教室（23年度） ○世界の国々との交流事業 ウィーン市ドナウシュタット区との交流事業、外国からのインターン大学生受入（17年度）、日澳親善コンサート（26年度）、ホームビジットの試行（26年度）、済州青少年国際フォーラムへの高校生派遣（26年度）						
経過	自主財源率（会費及び事業収入等）の推移 12年度までは総収入の15%程度、15年度以降は45%（補助金減、賛助会員や受益者負担の増による） 17年度は済州市、大連市中山区との友好都市提携に伴う、区補助金増のため38%となり、以後18年度41.8%、19年度37.2%、20年度32.7%、21年度36.7%、22年度37.6%、23年度31.7%、24年度37.7%、25年度は40.4%、26年度は36.7%、27年度は45.0%である。						
必要性	国際交流事業や在住外国人への支援、地域の外国人との交流を推進し、区民の国際理解を深めるとともに、多様な文化が共生できる地域社会を実現するため、団体への支援は不可欠である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） 協会の派遣依頼により、地域文化スポーツ部長は事務局長、課長は事務局次長、都市交流係員は事務局員を兼職。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		6,147	5,147	6,147	6,147	6,147	6,147
①決算額（28年度は見込み）		4,950	3,343	4,636	4,005	5,727	4,532	6,636
②人件費等		11,336	11,010	10,739	10,812	9,656	10,005	
③減価償却費			4,043	4,195	4,394	4,064	4,437	
【事務分担当量】（%）		1	1	1	130	125	130	
合計（①+②+③）		16,286	18,396	19,570	19,211	19,447	18,974	6,636
特定財源	国	0	0	0	0	0		
	都	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0		
	一般財源	16,286	18,396	19,570	19,211	19,447	18,974	6,636
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	協力会員（人数）	428	502	584	581	525	536	500
	賛助会員（件数：団体+個人）	129	94	115	114	208	163	170
	補助金の協会事業に占める割合（%）	62.4	68.3	62.3	59.5	63.3	55.0	55.0

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	国際交流協会補助	5,727	負担金補助等	国際交流協会補助	4,532	負担金補助等	国際交流協会補助	6,636

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 協力会員・賛助会員数	695	733	699	670	670	個人+団体数
	② 協会事業参加者数	3,322	3,698	4,022	4,000	4,000	日本語教室等は延べ人数
	③						

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人住民の増加に伴い、日本語教室や日本語サロンへの参加者数が増加している。これらの教室・サロンの運営を支えるボランティア活動を行う会員を増やす必要がある。</li> <li>協力会員のうち、近年ボランティア活動から遠ざかっている会員がいるため、活動の意思確認と再活動に向けた働きかけを行う必要がある。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 8 区 未実施 14 区 不明 0 区） 国際交流設置自治体※東京都国際交流委員会HPより

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	協会HP及びブログ、SNS等活用により情報発信を行い、事業への参加者や協力会員を獲得する。	協会の活動の活動について、区報や協会HPなどの媒体を通して、情報発信を行った。SNSの活用については改善が必要である。	フェイスブック等SNSの活用や中高年層への情報発信等により、ボランティア活動を行う人材を発掘し、育成講座を実施する。
②	協力会員登録者への協会事業のPRを行い、協会事業への参加やボランティア活動につなげる。	協会だよりや事務局だよりの発送により協会事業の情報提供と活動の呼びかけを行ったが、会員継続についての意思確認が必要である。	協力会員に対して、活動への参加促進を行う。また、現ボランティアに対するフォローを行い、活動を促進する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
重点的に推進	重点的に推進	区民主体の国際交流の推進母体として区が重点的に支援することが必要である。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--



# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-05	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事
事務事業名	海外都市交流事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	白石
				内線	2524		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-03-02	海外都市交流事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 28年度 <input type="radio"/> 27年度）			<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業	
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成		5年度	根拠	友好都市提携協定		
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		年度	法令等	国際化推進員設置要綱		
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画		<input type="radio"/> 非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	02	国内・海外都市との交流の推進				
目的	海外都市に対する区民の関心を高めることにより、世界に開かれたまちとしての荒川区の魅力や活力を高めるとともに、産業交流等により区内の優れた技術や製品を広くアピールする。（荒川区都市間交流に関する取り組み指針）						
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドナウシュタット区(オーストリア共和国ウィーン市)…平成8年10月21日提携(荒川公園に桜を植樹)</li> <li>・済州市(韓国済州特別自治道)…平成18年2月17日提携</li> <li>・中山区(中国大連市)…平成18年3月10日提携</li> <li>・コーバリス市(アメリカ合衆国オレゴン州)※提携調印無</li> </ul>						
内容	<p>海外友好都市等との都市間交流、連絡、調整及び相互訪問等</p> <p>&lt;ドナウシュタット区&gt; 高校生相互派遣（受入：6年度～、派遣：9年度～）（国際交流協会主管） ウィーン大学生の荒川区での研修受入</p> <p>&lt;済州市&gt; 区民ツアー、済州市研修生受入、ABC卒業生の短期派遣、ドルブルへの参加 済州島青少年国際フォーラムへの高校生派遣（国際交流協会主管） 済州市老人会の訪問受入（民間交流）</p> <p>&lt;中山区&gt; 区民ツアー、産業交流（日暮里ファッションショー）、ABC卒業生の短期派遣</p> <p>&lt;その他&gt; オレゴン州立大学研修生受入（9年度～）</p>						
経過	<p>[ドナウシュタット区] 13年度 提携5周年記念荒川展(ドナウシュタット区)、ドナウ通り・広場(南千住) 18年度、23年度、28年度 区民ツアー(協会事業) 20年度 両区訪問団相互訪問、26年度 ラルゴ・フットボールクラブ親善試合（民間交流） 28年度 提携20周年記念 ウィーン荒川展（伝統工芸展）開催</p> <p>[済州市] 17年度 市制施行50周年記念式典に荒川区議会副議長他出席、両区・市長相互訪問 18年度、22年度 区民ツアー(協会事業) ※22年度はフラダンス団体も派遣（民間交流） 19年度 市職員研修生の受入(～24年度)、ドルブルへ代表団派遣(～22年度、24・26年度) 23年度 友好交流5周年事業実施</p> <p>[中山区] 17年度 両区長の相互訪問、9年・18年・22年度 区民ツアー(協会事業)、21年度 職員派遣</p> <p>[コーバリス市] 4年度 児童生徒絵画展を相互開催(～7年度)、5年度 コーバリス市長夫妻来日 6年度 区長訪問、区職員研修生派遣</p>						
必要性	荒川区を世界に開かれたまちとして、産業・観光・芸術文化・スポーツなどの広範な分野にわたる交流を深めていく必要がある。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員 ) 交流事業は荒川区国際交流協会が実施している。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		予算額	12,500	16,954	9,847	10,417	12,552	13,459
①決算額（28年度は見込み）		11,263	15,713	9,479	8,581	11,692	13,292	41,561
②人件費等		3,488	2,541	2,478	1,663	1,931	2,694	
③減価償却費			933	968	676	813	1,195	
【事務分担量】（%）		0	0	30	20	25	35	
合計（①+②+③）		14,751	19,187	12,925	10,920	14,436	17,181	41,561
特定財源	国	0	0	0	0	0		
	都	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0		
	一般財源	14,751	19,187	12,925	10,920	14,436	17,181	41,561
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	海外出張旅費支出人数	13	4	2	1	6	12	23
	海外受入・訪問団体数	7	7	11	9	10	14	11

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	国際交流推進員報酬	9,084	報酬	国際交流推進員報酬	9,507	報酬	国際交流推進員報酬	9,656
共済費	国際交流推進員社会保険料	1,309	共催費	国際交流推進員社会保険料	1,354	共催費	国際交流推進員社会保険料	1,385
旅費	交流都市訪問等	1,261	旅費	交流都市訪問等	1,970	旅費	交流都市訪問等	7,864
需用費	交流都市等訪問団受入時贈い等	16	需用費	交流都市訪問団受入時贈い等	408	需用費	交流都市訪問団受入時贈い等	808
役務費	交流都市訪問時入出国税等	22	役務費	交流都市訪問時入出国税等	48	役務費	交流都市訪問時入出国税等	262
			その他使用料及び賃借料	交流都市訪問時携帯電話レンタル料	5	その他委託料	ウィーン荒川展委託	10,082
						その他補助金	民間団体等に対する国際交流補助金	8,685

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 訪問回数	2	4	6	10	10	荒川区⇒海外都市
	② 受入回数	7	7	12	7	7	海外都市⇒荒川区
	③						

（問題点・課題 指標分析）	<p>友好交流都市であるウィーン市ドナウシュタット区、済州市、大連市中山区との交流について、広く区民に交流実績及び交流意義をPRしながら継続的な交流しつつ、民間交流を拡大していく必要がある。また、平成28年度は、提携開始から節目の年を迎えるため（済州市・中山区10周年、ドナウシュタット区20周年）、記念式典等を実施する。</p>
	<p>（実施 20 区 未実施 2 区 不明 0 区） 姉妹・友好都市提携状況</p>

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	民間交流の拡大のため、引き続き効果的なPRを行い、交流都市への訪問者数の増加を図る。	済州市と日本の少年サッカー交流試合を行うことで、民間交流充実を図った。イベント時の各都市のパンフレット配付により交流促進した。	済州市での少年サッカー交流試合や、済州市やドナウシュタット区への区民ツアーなど民間交流事業の支援を行う。
②	平成28年度は各交流都市との提携開始から節目の年を迎えることから、記念事業の実施を検討する。	平成28年度に記念事業を実施するにあたり、各交流都市担当者との打合せや会場の事前視察等の万全の準備を行った。	各交流都市との友好交流を区民にPRし、今後もさらに発展させるよう、訪問団の派遣・受入など記念事業を実施する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
重点的に推進	重点的に推進	国際理解、文化振興のため大きく貢献する事業である。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-06	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	緑と彫刻の街づくり事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	安藤
				内線	2521		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-04-01	緑と彫刻の街づくり事業費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 60年度		根拠				
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	01	芸術・文化の振興				
目的	緑の多い広場、公園やゆったりとした歩道など、区民の多くが憩い、集う場所に彫刻を設置し、新しい景観、ゆとりと潤いの空間を区民に提供する魅力あるまちづくりを推進することを目的とする。						
対象者等	区民及び区外からの訪問者						
内容	<p>(1) 彫刻作品の設置 生活にゆとりとやすらぎを創りだし、住み続けたい街、魅力ある街づくりの一環として彫刻を設置し、適切に管理するものである。 &lt;設置場所の基本的な考え方&gt; ①区民や区外の人が多く利用する場所（本庁舎前、主要駅、多数の区民の集う拠点施設、公園等） ②特定区民の利用する場所（学校、校外教育施設等） 設置場所、設置施設に適したシンボル性や親しみを感じられるものを設置してきた経緯がある。</p> <p>(2) 汐入タワーの管理 東京都が設置・所有する都立汐入公園（南千住8丁目）内の汐入タワーの管理および汐入タワーを活用した事業を展開する。</p>						
経過	<p>(1) 彫刻作品の設置 ・「緑と彫刻の街づくり事業」として昭和60年度から公共の広場、公園、道路などに計86体（うち寄贈38体）を設置。（H27年度で計86体） ・平成15年から平成18年は新規の設置は行わず、清掃・メンテナンス及び修繕のみ行ってきた。 ・平成23年度彫刻マップをHP上に掲載。</p> <p>(2) 汐入タワーの管理 当初は、平成25年度に解体を予定していたが、地元町会が制作に協力し、区民に親しまれている施設であることから、設置延長について東京都と調整を行った。平成28年度末まで設置を継続することとし、平成26年度より東京都と区により管理を行うこととした。現在、更なる延長について、東京都と調整している。</p>						
必要性	彫刻は、街にゆとりとうるおいを創出し、地域文化の向上と区のイメージアップを図るため設置してきた。「豊かさの実感できる社会」の創造が求められるなか、設置した彫刻が区民に親しまれるよう適切に管理していくことが重要である。						
実施方法	<p>（ 2一部委託 ） （ 直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員 ）</p> <p>(1) 彫刻作品の設置：彫刻作品の清掃・メンテナンスを行い、作品を適切に管理。 (2) 汐入タワーの管理：平成26年度以降、区が維持管理（要する経費を負担）。</p>						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額		3,763	4,691	1,475	3,628	4,758	5,837	9,658
①決算額（28年度は見込み）		3,667	4,447	1,397	3,342	4,342	4,051	9,658
②人件費等		4,360	1,270	413	416	1,931	1,308	
③減価償却費		1,453	467	161	169	813	580	
【事務分担当量】（%）		50	15	5	5	25	17	
合計（①+②+③）		9,480	6,184	1,971	3,927	7,086	5,939	9,658
特定財源	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	9,480	6,184	1,971	3,927	7,086	5,939	9,658
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	彫刻の清掃メンテナンス（体）	43	44	62	51	51	62	53
	彫刻の修繕数（体）	3	4	2	1	2	1	1
	区内の彫刻数（体）	69	74	77	80	82	86	88
設置数	3	5	2	3	2	4	2	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	消耗品	270	需用費	彫刻修繕	324	需用費	彫刻修繕、消耗品	636
委託料	彫刻・壁画清掃、汐入タワー管理	2,101	委託料	彫刻清掃、汐入タワー管理	2,431	委託料	彫刻清掃、汐入タワー修繕	8,022
工事請負費	彫刻の移設	729	備品購入費	彫刻の購入	1,296	備品購入費	芸術作品購入費	1,000
備品購入費	絵画購入	1,242						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 彫刻の修繕完了率(%)	100	100	100	100	100	修繕完了数（年度内）/修繕必要数
	②						
	③						

問題点・課題 （指標分析）	①身近な芸術作品として区民に親しんでもらえるよう、区内に設置している彫刻作品のPRを強化する必要がある。 ②平成29年度以降も設置を継続することとなった汐入タワーの安全管理と、設置延長に伴う修繕及び東京都との事務手続き等を適切に行っていく必要がある。
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	作品のPRを図ることで、荒川区の魅力を発信できるような事業について検討する。	引き続き荒川区ホームページでのPRを行っているほか、彫刻修繕及び清掃を実施し、安全管理を行っている。	彫刻作品のより効果的なPR方法を検討するとともに、彫刻作品を活用した事業について検討する。
②	平成28年度のクロージングイベントの安全な実施に向け、検討を行う。	平成29年度以降も設置延長するための安全点検や修繕方法を確認した。	設置延長する際は、現在のタワー所有者かつ汐入公園管理者である東京都との手続きを適切に進める。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	藝大との連携も含め新たな視点での彫刻設置を推進する。

況議 （要 旨） 問 状	H19年1定 彫刻のPR（彫刻マップ等の作成）について
--------------------------	-----------------------------

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-07	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	公共施設サイン設置事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	南谷
				内線	2521		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-05-01	公共施設サイン設置事業費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 62年度		根拠	荒川区公共サインガイドライン			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	10	活気ある地域コミュニティの形成				
	施策	01	コミュニティ活性化の推進				
目的	荒川区内の道路は複雑に入り組んだところが多く、目印となるものが必要である。公共施設の所在、順路、内容等を表示したサイン類を適宜区内に設置することにより、区外からの訪問者にわかりやすく、区民に暮らしやすい街づくりを進めることを目的とする。						
対象者等	区民及び区外からの訪問者						
内容	<p>区内の主要な駅前、交差点などに公共施設の所在、順路、内容を表示したサイン類を適宜設置。地区案内板は英文表記あり。誘導表示板は英文、中国語、ハングル表記あり。総合案内板は平成26年度に全て撤去済。</p> <p>【地区案内板】                  （設置数） 5基 （設置場所） 駅前、公園等 （表示範囲） 1.5キロ四方                  （表示施設） 官公署、公共施設、学校、幼稚園、保育園、児童公園、鉄道、主要道路等</p> <p>【誘導表示板】                  （設置数） 24基 （設置場所） ルート上の主要な曲がり角                  （表示施設） 公共施設名称と矢印、施設までの距離</p>						
経過	<p>昭和62年度より設置事業を開始し、主要幹線道路や、駅前にはほぼ設置済みである。現在サインの設置事業は休止し、メンテナンス及び修繕を行っている。平成9年度からシルバー人材センターに清掃を委託。</p> <p>平成26年度実績                  清掃：総合案内板（1基）、地区案内板（6基）、誘導案内板（24基）                  撤去：総合案内板（2基）</p> <p>平成27年度実績                  清掃：地区案内板（5基）、誘導案内板（24基）                  撤去：地区案内板（1基）</p>						
必要性	現状の表記と実際が異なっているものを随時加除修正しつつ、正しい内容に整備する必要がある。整備するにあたっては、荒川区公共サインガイドラインに沿って、デザインや表記方法の統一を図る。						
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 清掃：平成9年度からシルバー人材センターに清掃を委託。 修繕：清掃の際、修繕が必要なものに対して見積もり競争にて業者を選定し、委託						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		予算額	517	627	277	497	514	381
①決算額（28年度は見込み）		374	180	235	464	440	352	501
②人件費等		872	847	413	416	386	770	
③減価償却費		291	311	161	169	163	341	
【事務分担当量】（%）		10	10	5	5	5	10	
合計（①+②+③）		1,537	1,338	809	1,049	989	1,463	501
特定財源	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	1,537	1,338	809	1,049	989	1,463	501
実績の推移	サイン設置数	33	31	31	31	30	29	25
	サイン清掃数	33	31	31	31	30	29	20
	サイン修繕数（地区案内板）	1	0	2	1	1	0	1
	サイン修繕数（誘導案内板）	3	9	4	5	5	0	5

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
役務費	サイン清掃費	82	役務費	サイン清掃費	72	役務費	サイン清掃費	52
委託料	サイン撤去委託	359	委託料	サイン撤去委託	279	委託料	サイン撤去委託	449

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 地区案内板撤去率(%)	40	40	50	60	60	H27年度までに5基撤去。H28年度以降、順次整理を行う。
	②						
	③						

問題点・課題 (指標分析)	デザインや、表示方法について、統一性がとれていない案内板について、荒川区公共サインガイドラインに沿って、関係部署と連携し、整備する必要がある。
	<p>（実施 18 区 未実施 0 区 不明 4 区）</p> <p>渋谷区は2006年デジタル地図案内板を作成。日本語、英語、中国語、韓国語の4カ国語表記の地図を表示でき、拡大・縮小機能があり、目的別検索ができる。</p>

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	関係部署と表示基準デザイン等について協議し、外国語表記の充実を図るとともに、既存案内板の整理を行う。	関係部署と表示デザイン等について協議。既存案内板の撤去等について「ゆいの森あらかわ」の公共サイン計画の中で検討を実施。	「ゆいの森あらかわ」の荒川地区周辺の公共サイン計画に合わせ撤去や統一的なデザインへの修繕等、協議しながら進める。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
改善・見直し	改善・見直し	区外からの訪問者にわかりやすく、区民に暮らしやすい街とするため、継続実施する。

況議 (要 会 質 問 状)	・H25 1定 統一のとれた計画によって整備する取り組みが必要
-------------------------------	---------------------------------

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-08	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	音楽のまちづくり推進事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	安藤
				内線	2521		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-06-01	音楽のまちづくり推進事業費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 61年度		根拠	東京荒川少年少女合唱隊補助金交付要綱			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	V 文化創造都市					
	政策	09 伝統文化の継承と都市間交流の推進					
	施策	01 芸術・文化の振興					
目的	音楽を中心とする地域文化の振興を図り、区の芸術文化の向上に寄与することを目的とする。区に本拠地を置く東京荒川少年少女合唱隊は、合唱活動を通じて荒川区のイメージアップと区民の文化的水準の向上、青少年の健全育成に大きく貢献していることから、区が補助金を交付し活動を支援することで、荒川区の文化振興を図る。						
対象者等	東京荒川少年少女合唱隊 代表：大村 光彦 指揮者：米谷 毅彦 団員数：24名（平成28年4月現在）						
内容	≪合唱隊への補助金の支出≫ 合唱隊の活動に要する経費で、合唱隊が計画及び予算を決定する事業について、区長が認めたものを補助対象事業とする。 ≪参考≫合唱隊の主な活動状況 平成27年度 ・定期演奏会の開催等区内外で幅広く活動 （平成27年度はサンパール荒川が改修工事に伴い定期演奏会場変更のため、入場者数が減少） 平成28年度 ・50周年記念コンサート、定期演奏会等 ・平成29年3月に荒川区・ドナウシュタット区交流都市20周年記念演奏旅行を予定						
経過	昭和40年に創立され、区内外で幅広く活動している。 ≪合唱隊による演奏≫ ①区内での公演 平成15年度～18年度：区役所玄関ロビーにて年2回ミニコンサートを開催 平成17年度に、創立40周年記念のため記録ビデオ「こころで唄いあげた日々 東京荒川少年少女合唱隊40周年、そして未来へ」を作成。 平成22年度～：クリスマスツリー点灯式（ハッピーイズプロジェクトJR日暮里駅コンコース） ※このほか、荒川区新年祝賀会で合唱を披露している。 ②あらかわキャラバン事業への参加 平成23年度釜石市、平成24年度秩父市、平成25年度北杜市へ派遣						
必要性	荒川区のイメージアップ、青少年の健全育成や音楽を中心とした地域の芸術文化活動の広がりをもたらすため、全国的に知名度の高い合唱隊の活動を今後も支援していく必要がある。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 補助金の支出については、補助要綱に基づき、事業内容を審査の上、補助金額を決定している。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		1,915	1,852	1,852	1,852	1,852	1,852
①決算額（28年度は見込み）		1,852	1,852	1,852	1,852	1,852	1,852	1,852
②人件費等		1,308	2,117	165	832	386	539	
③減価償却費		436	778	65	338	163	239	
【事務分担当量】（%）		15	25	2	10	5	7	
合計（①+②+③）		3,596	4,747	2,082	3,022	2,401	2,630	1,852
特定財源	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	3,596	4,747	2,082	3,022	2,401	2,630	1,852
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	隊員数	37	42	34	35	30	33	24
	定期演奏会来場者数	765	790	756	800	950	362	1000
	演奏回数	18	23	17	17	10	19	10

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	合唱隊に対する補助金	1,852	負担金補助等	合唱隊に対する補助金	1,852	負担金補助等	合唱隊に対する補助金	1,852

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 定期演奏会来場者数(%)	67	74	80	75	75	会場の定員の9割を100とした場合の割合
	②						
	③						

問題点・課題 (指標分析)	①学校や地域などと連携した事業展開やメンバー募集を支援する必要がある。 ②区の行事への参加など、活動の機会や場所についての情報提供を区から積極的に行い、あわせて団体の活動の広報についても支援を行っていく必要がある。
	他区の実況 (実施 5 区 未実施 0 区 不明 17 区)

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	合唱隊がより幅広く活動を展開していけるよう、区として更なる情報提供や活動の場の提供を行っていく。	創立50周年記念式典等について、情報提供をはじめとする支援を行った。	リニューアルされたサンパール荒川での定期演奏会で支援を行うほか、その他の活動についても支援を行う。
②	区内他団体との調整をどのように実現していけるかを検討する。	区内の他音楽団体（荒フィル）等との連携について、ヒアリングを実施した。	引き続き他団体との連携について協議を行う。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	合唱活動を通じた区のイメージアップと区民の文化的水準の向上、青少年の健全育成のため、支援を継続していく。

況議 (要 会 質 問 状)	
-------------------------------	--



# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-09	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	あらかわキャラバン事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	高田
				内線	2521		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-07-01	あらかわキャラバン事業					
事務事業の種類	●新規事業（○28年度 ●27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成	20年度	根拠				
終期設定	○有 ●無	年度	法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	02	国内・海外都市との交流の推進				
目的	荒川区と交流都市との交流は、双方の地域の祭りに参加するなどして、名産品の紹介・販売や、人々との交流は図られてきたが、芸術・芸能・文化面で各都市を代表する団体・個人の交流を更に活性化させるため、キャラバンとして区を代表する団体・個人を交流都市等へ派遣し、交流・公演をすることにより、区の芸術文化面を紹介するとともに、区民の芸術文化活動を促進する。						
対象者等	交流都市に赴き文化・交流事業を展開できる荒川区内の団体及び個人。						
内容	派遣団体は、キャラバン隊として5年程度の間、毎年異なる交流都市に出向き、交流活動を行う。区は交流都市との調整を実施するとともに、派遣に必要な交通費、宿泊費等の必要経費を負担する。  ※21年度まで国内都市交流事業として区内団体を派遣していた鴨川市及び大多喜町との交流事業について、22年度から事業を組み替え「あらかわキャラバン事業」として実施。						
経過	≪区内音楽団体の派遣≫ ○平成27年度：福島市 ≪区内三味線デュオの派遣≫ ○平成26年度：南アルプス市 ≪東京荒川少年少女合唱隊の派遣≫ ○平成20年度：つくば市 ○平成21年度：福島市 ○平成23年度：釜石市 ○平成24年度：秩父市 ○平成25年度：北杜市 ※平成22年度は震災により鴨川市への派遣中止 ≪区内ダンスグループの派遣≫ ○平成21年度～：鴨川市へ派遣 ≪太鼓団体の派遣≫ ○平成20年度～：大多喜町へ派遣 ※キャラバン事業開始以前より、派遣を実施						
必要性	荒川区を広く紹介し、区の文化振興を図るために必要な事業である。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額		1,796	1,986	1,219	937	965	1,377	1,349
①決算額（28年度は見込み）		120	1,379	1,127	884	463	774	1,349
②人件費等		2,616	2,964	2,726	4,159	1,545	1,154	
③減価償却費		872	1,089	1,065	1,690	650	512	
【事務分担量】（%）		30	35	33	50	20	15	
合計（①+②+③）		3,608	5,432	4,918	6,733	2,658	2,440	1,349
特定財源の推移	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	3,608	5,432	4,918	6,733	2,658	2,440	1,349
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	派遣団体数	1	2	3	3	3	3	3

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	団体出演報償費	132	報償費	団体出演報償費	132	報償費	団体出演報償費	144
旅費	職員旅費	29	旅費	職員旅費	2	旅費	職員旅費	38
需用費	食糧費・土産	33	需用費	食糧費・土産	29	需用費	食糧費・土産	66
役務費	交通費・保険料	17	使用料等	バス借上げ・宿泊料	611	役務費	交通費・保険	16
使用料等	バス借上げ・宿泊料	252				使用料等	バス借上げ・宿泊料	1,085

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 訪問都市数	3	3	3	3	3	キャラバン隊が訪問する交流都市の数
	②						
	③						

問題点・課題 (指標分析)	①キャラバン隊として、区を代表して活動を行う新たな団体の発掘をACCと協力して行っていく必要がある。 ②派遣先となる交流都市について、受入可能な都市を広く募っていく必要がある。
	他区の実況 (実施 0 区 未実施 0 区 不明 22 区)

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	ACCと協力し、引き続き新たに荒川区から派遣する団体の発掘・選出を行う。	ACCから適当な団体についてヒアリングを実施した。	訪問先交流都市や参加する先方の事業内容の適した団体を引き続き発掘・派遣する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	芸術文化面で区を代表する個人・団体を交流都市に派遣し、交流促進とともに芸術文化振興を図る。

況 (要旨) 議 会 質 問 状	
------------------------------------	--



予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	出演者賄い	27	需用費	出演者賄い	60	需用費	出演者賄い	64
委託料	広告・イベント委託	3,688	委託料	広告・イベント委託	3,911	委託料	広告・イベント委託	4,403
負担金補助等	実行委員会補助金	746	負担金補助等	実行委員会補助金	584	負担金補助等	実行委員会補助金	1,000

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 区主催の日暮里駅前ひろばの活用数	2	2	2	2	2	イベントの開催数
	② 友好都市等の駅前ひろばの活用数	1	1	1	2	2	イベントの開催数
	③						

（問題点・課題分析）	①全国連携の一環として、荒川区と各交流都市にとってメリットのあるイベントを増やしていく必要がある。 ②イベント時の騒音や交通整理について、周辺住民に配慮する必要がある。
	他区の実況 (実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	区主催の駅前イベントを2回とも交流都市合同形式で実施し、より多くの交流都市が参加できるようにする。	平成27年度からは2回とも交流都市合同形式で実施したことにより、みなべ町など、新たな交流都市が参加できた。	全国連携の一環として、全国連携ブースを2テント提供し、全国の自治体が首都圏に出展できるようにする。
②	引き続き騒音対策を行うとともに、より魅力的なプログラムを実施できるよう検討する。	周辺住民の生活環境に配慮したプログラムを組み立てたとともに、新たな伝統芸能団体が出演した。	引き続き騒音対策を行い、より魅力的なプログラムを実施できるよう検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	都市間交流の推進、芸術文化の振興により、あわせて地域の活性化を図る。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-11	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	東京藝術大学との連携事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	安藤
							内線
							2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-09-01	東京藝術大学との連携事業					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成		21年度	根拠			
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内		○都基準内	●区独自基準	計画区分	●計画	○非計画
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	01	芸術・文化の振興				
目的	荒川区の隣接地に所在し、我が国の芸術文化の発展に大きな役割を果たしている国立大学法人東京藝術大学と、芸術・文化振興に係る事業はもとより、幅広く区行政全体にわたって相互の人材及び物的資源を最大限に生かした緊密な連携のもとに協力して事業を実施し、区における芸術文化の振興を図る。						
対象者等	東京藝術大学関係者等						
内容	(1) 東京藝術大学卒業生グループ「アブリュス」（以下「A+」という）と協力し、次代の芸術文化活動の担い手となる子どもを育むためのワークショップや講座、公開制作など芸術教育事業の実施、区民の芸術文化活動の振興のため展示会や制作講座などの企画実施を行い、芸術文化を介した交流の機会を提供する。 (2) 19年度から、東京藝術大学卒業・修了予定者が制作する彫刻作品を対象に荒川区長賞を授与し、受賞作品を区内に設置している。（22年度より「緑と彫刻の街づくり事業」から本事業に組替） (3) 22年度・24年度・25年度・26年度・28年度にA+に委託して地域と協力し壁画制作を実施。 (4) 文字や写真だけでは伝わらない荒川区の魅力を映像で内外に発信する「荒川区PR映像」を制作する。 (5) 東京藝術大学大学院映像研究科撮影スタジオの区内誘致を契機として、芸術文化の更なる振興を図る。 (6) プロによる本物の演奏と、専門家による教育を区内幼稚園の園児等に提供することにより、質の高い音楽教育を提供し、区の文化・芸術振興をはかる。						
経過	平成20年度：A+企画展開催（7月）、ワークショップ開催（2回）、「国立大学法人東京藝術大学・荒川区 芸術・文化振興のための連携に係る合意書」締結（12月） 平成21年度：水道局旧工業用水道事務所の一部をA+が活動拠点として使用（4月～24年8月） ワorkshop開催（8月・1月・3月） 平成22年度：常磐線第2三ノ輪ガード壁画制作（9～12月）、ワークショップ開催（4講座） 平成23年度：ワークショップ開催（6講座） 平成24年度：東日暮里第1・第2辻元ガード間壁画制作（6月～10月）、ワークショップ開催（6講座） 平成25年度：常磐線第3三河島ガード下壁画（南千住側）制作（10～1月）、ワークショップ開催（10講座） 平成26年度：常磐線第3三河島ガード下壁画（東日暮里側）制作（10～1月）、ワークショップ開催（6講座） 平成27年度：ワークショップ（美術・音楽）開催（8講座）荒川区PR映像（2種類）を作成						
必要性	区民が身近なところで、質の高い芸術作品や芸術家に触れる機会を創出することは、区民の自主的な文化活動の促進につながるため、必要性が高い。						
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） ワークショップを東京藝術大学音楽学部やA+に委託して実施している。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	12,646	9,035	9,602	8,492	7,179	27,860	29,854	
①決算額（28年度は見込み）	11,525	8,222	8,569	8,226	6,666	17,905	29,854	
②人件費等	5,232	4,065	5,370	4,574	5,948	3,848		
③減価償却費	1,743	1,493	2,098	1,859	2,503	1,707		
【事務分担量】（%）	60	48	65	55	77	50		
合計（①+②+③）	18,500	13,780	16,037	14,659	15,117	23,460	29,854	
特定財源	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	291	385	306	0			
	一般財源	18,209	13,395	15,731	14,659	15,117	23,460	29,854
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	実施事業数	5	6	6	10	7	8	9
	藝大卒業修了制作作品数累計	8	10	12	14	16	18	20

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	奨学金、ワークショップ講師等謝礼	2,389	報償費	奨学金、ワークショップ講師等謝礼	2,352	報償費	奨学金、ワークショップ講師等謝礼	2,514
需用費	消耗品購入	75	需用費	消耗品購入	166	需用費	消耗品購入	235
役務費	賞状筆耕	6	役務費	賞状筆耕	13	役務費	賞状筆耕	7
委託料	ワークショップ等事業実施委託	3,383	委託料	PR映像、ワークショップ委託	3,676	委託料	PR映像、壁画、ワークショップ委託	8,087
工事請負費	卒業作品設置工事	329	使用料等	水道局旧工水事務所賃料	10,236	使用料等	水道局旧工水事務所賃料	17,548
備品購入費	卒業作品設置ケース	484	工事請負費	卒業作品設置工事	1,462	工事請負費	卒業作品設置工事	1,463

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 藝大連携事業への参加人数	581	291	339	350	350	藝大連携事業への参加者数
	② 区内壁画の延べ数	3	4	4	5	5	
	③						

問題点・課題 (指標分析)	①これまでA+の協力で藝大連携事業を実施してきたが、他の団体や個人の芸術家との幅広い連携も視野に入れ、芸術文化活動のさらなる拡充を図る必要がある。 ②地域住民から愛され、景観を損なわない壁画を制作するため、デザイン決定や制作の過程に地域住民の参加を促す必要がある。
	他区の実況 (実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区) ・壁画の実施区の数

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	A+に加え、藝大区長賞受賞者等によるワークショップを実施する。	引き続き新たな講師によるワークショップ実施に向けて調整を行う。	東京藝大と連携して新たなワークショップを実施する。
②	28年度の壁画制作に向け、制作場所付近の住民を対象としたワークショップを行い、デザイン案を作る。	デザイン案を協議し、平成28年度にはスタンプを使った壁画を作成することとなった。	壁画近隣のひぐらし小学校児童を対象に壁画ワークショップを実施する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
重点的に推進	重点的に推進	藝大との連携により、芸術家の活動を支援するとともに、区民に身近な場所で質の高い芸術作品・芸術家と接する機会を提供していく。

況議 (要 旨) 問 状	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-12	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	俳句文化振興事業	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	高田
							内線
							2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-10-01	俳句文化振興事業					
事務事業の種類	●新規事業（○28年度 ●27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成	27年度	根拠				
終期設定	○有 ●無	年度	法令等				
実施基準	○法令基準内	○都基準内	●区独自基準	計画区分	○計画	●非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	01	芸術・文化の振興				
目的	「荒川区俳句のまち宣言」に基づき、俳句のまちであることを区内外へ強く発信し、子どもから大人まで俳句文化の裾野を広げ、豊かな心を育むとともに、矢立初めの地千住を始めとした俳句に縁のある観光スポットを、区内外に向け広くPRすることで、誘客を促進し、地域の賑わいを創出する。						
対象者等	区民及び区外からの来訪者、俳句サミット加盟自治体等						
内容	<<平成27年度の主な取組>> ①著名な俳人による講演会の開催。 ②投句事業の実施（「さくら投句会」、「あらかわ俳壇」、「さくら鑑賞会」等） ③俳句宣言銘板の制作設置（区内5か所）、俳句タイトルの制作・設置（区内5か所） ④PRグッズ制作・配布（「荒川区俳句のまち宣言」多言語版パンフレット、一筆箋・俳句手帳等） ⑤PR映像～俳句のまちあらかわ～を制作  <<平成28年度の新規取組>> ①英語俳句手帳の制作 ②中学生を対象とした俳句ハイクの実施						
経過	荒川区は「奥の細道矢立初めの地」であり、日ぐらしの里（日暮里）も江戸の名所として知られ、多くの文人達が足跡を残した俳句にゆかりの地である。これまでも、子ども俳句相撲大会の開催や奥の細道サミットへの参加、むすびの地・大垣市との交流、区内小中学校における取組などを通じて俳句文化の振興を図ってきた。 平成27年3月「奥の細道千住あらかわサミット」の開催を契機として「荒川区俳句のまち宣言」を行い、更なる俳句文化の振興を図る。  平成27年3月14日 奥の細道千住あらかわサミットにて「荒川区俳句のまち宣言」を発表 平成27年度：あらかわ俳壇、俳句宣言銘板・俳句タイトルの制作・設置、PRグッズ、俳句手帳の作成 平成28年度：英語俳句手帳の作成、俳句ハイクの実施						
必要性	俳句にゆかりの地として、俳句文化の更なる振興を図り、豊かな俳句の心を育み、幸せと活気に満ちた魅力あふれる荒川区をめざすとともに、俳句による地域振興・観光振興等を図ることができる。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	—	—	—	—	0	4,474	2,905	
①決算額（28年度は見込み）	—	—	—	—	0	3,091	2,905	
②人件費等						5,464		
③減価償却費						2,423		
【事務分担量】（%）						71		
合計（①+②+③）	0	0	0	0	0	10,978	2,905	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	0	0	0	0	0	10,978	2,905	
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	投句事業（年間）						4	4
	俳句タイトルの設置						5	3

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
			報償費	講師謝礼	146	報償費	講師謝礼	171
			旅費	職員旅費	111	旅費	職員旅費	359
			需用費	消耗品購入	1,736	需用費	消耗品購入	961
			委託料	銘板設置	320	役務費	広告費	265
			使用料等	施設使用料	51	委託料	俳句タイル作成	300
			工事請負費	俳句タイル設置	227	使用料等	団体旅費	699
			備品購入費	彫刻購入	500	工事請負費	俳句タイル設置	150

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 投句事業への投稿句数			855	900	900	
	②						
	③						

（問題点・課題 指標分析）	①俳句文化の裾野を広げるため、投句数を増やしていく。 ②俳句事業の参加者に偏りがあるため、広く他の世代も参加できる事業を行う必要がある。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実 状況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	俳句文化の裾野を広げるため、投句事業を実施する。	投句事業を3回、講演会を1回実施した。	事業実施に関する広報を徹底し、新たに区ホームページからの投句を行うことにより、投句数を増やす。
②	俳句事業の参加者に偏りがあるため、広く他の世代も参加できる事業を行う必要がある。	俳句の作り方を解りやすくまとめた俳句手帳を作成し、各小中学校に配布した。	中学生を対象とした俳句のバスツアーを検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
重点的に推進	重点的に推進	俳句を通じた地域の文化振興への取り組みは、区の重要な役割である。

況議 （要 会 質 問 状）	・H27年2月会議 俳句宣言後の取組について
-------------------------------	------------------------



# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-13	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	公益財団法人荒川区芸術文化振興財団 補助	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	榊
				内線	2522		
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（28年度）	01-01-01	財団職員人件費					
	01-02-01	財団運営費（財団運営費）					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		63年度	根拠	地・自法232の2、公益財団法人荒川区芸術文化振興財団に対する助成等に関する条例		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価 事業体系	分野	V 文化創造都市					
	政策	09 伝統文化の継承と都市間交流の推進					
	施策	9月1日 芸術・文化の振興					
目的	公共性と収益性のある芸術文化のための公益法人を育成することにより、事業の充実や新たな展開をはかり区民サービスを充実させる。あわせて、将来的に区財政の負担軽減を図る。						
対象者等	公益財団法人荒川区芸術文化振興財団						
内容	<p>本事業は芸術文化振興財団助成事業のうち、職員人件費及び財団運営に必要な運営費、理事会評議員会に関する経費、財務管理システム経費を補助するものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度(4月1日現在)</li> <li>常勤職員：理事長1人（固有）、事務局長1人（固有）、管理係3人（派遣）、文化事業係4人（派遣） ＜派遣職員7人、固有職員2人、非常勤職員7人＞</li> <li>運営費：光熱水費、消耗品費、健康診断費、通信運搬費、複写機等賃借料等</li> <li>理事会評議員会経費：理事会（13人）、評議員会（19人）開催に係る経費</li> <li>財務管理システム経費：データ回線使用料、システム機器リース経費等</li> </ul>						
経過	<p>平成18年度：町屋文化センター（所管：社会教育課）及び荒川遊園（所管：公園緑地課）の指定管理者となる。地域振興公社の所管課は区民生活部文化交流推進課となる。</p> <p>平成20年度：荒川遊園事業部長を設置。</p> <p>平成21年度：理事長を常勤職員（固有）とし、管理係を1名増員。管理係に遊園安全担当係長を設置。</p> <p>平成22年度：事務局長を固有職員とする。管理係に人材派遣職員を1名採用。</p> <p>平成23年度：理事長と事務局長を兼務とし、管理係の人材派遣職員を1名減。荒川遊園の指定管理を終了（区直営となったため）</p> <p>平成24年度：事務局長を配置し、理事長の兼務を解消。公益財団法人へ移行（4月1日）</p> <p>平成26年度：次長職を設置</p> <p>平成27年度：次長職を廃止し、文化事業係の派遣職員数を1名増</p>						
必要性	芸術文化事業の実施団体として、その活動を支援していく必要がある。 また、荒川区芸術文化振興財団の効率的な運営のため職員体制の確保は不可欠である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 補助金の交付						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額		71,606	118,059	13,786	49,257	49,728	49,556	53,094
①決算額（28年度は見込み）		71,606	80,085	12,007	47,807	43,764	48,449	53,094
②人件費等		174	423	826	416	386	308	
③減価償却費		58	156	323	169	163	137	
【事務分担量】（%）		2	5	10	5	5	4	
合計（①+②+③）		71,838	80,664	13,156	48,392	44,313	48,894	53,094
特定財源	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	71,838	80,664	13,156	48,392	44,313	48,894	53,094
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	派遣職員数	8	6	6	6	7	7	7
	固有職員数	3	1	2	2	2	2	2
	非常勤職員数	13	4	7	7	7	7	7

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	財団職員人件費	37,501	負担金補助等	財団職員人件費	38,685	負担金補助等	財団職員人件費	42,547
負担金補助等	財団運営費	6,262	負担金補助等	財団運営費	9,764	負担金補助等	財団運営費	10,547

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 友の会会員数	367	505	406	520	520	
	②						
	③						

（問題点・課題 指標分析）	区と緊密に連携し、円滑な事業運営と柔軟性を発揮した事業展開が求められる。						
	他区の実況	（実施 12 区 未実施 0 区 不明 10 区）					

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	継続してコスト削減に努めるほか、26年度の検討内容に基づく事務効率化と、その効果について検証を進める。	自主事業及び共催事業の実施にあたり、コスト削減に努めたほか、事務分担を見直し、事務の効率化を図っている。	円滑に財団運営できるよう、継続してコスト削減と事務の効率化に努める。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	芸術文化振興の担い手としてのACCへの補助が必要である。ACCの効率的な運営のため、職員体制確保は不可欠である。

況 議 （ 要 旨 ） 問 状	
--------------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-14	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	ほっとタウン発行（芸術文化振興財団費）	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤		
		担当者名	榊	内線	2521		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-02-02	ほっとたうん発行（財団運営費）					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成 63年度		根拠	地・自法232の2、公益財団法人荒川区芸術文化振興財団に対する助成等に関する条例			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	01	芸術・文化の振興				
目的	区内で行われる芸術文化活動の情報や区内で活躍する個人や団体の活動などを紹介し、区の広報誌では伝えきれない地域の文化情報を区民へ提供する。						
対象者等	公益財団法人荒川区芸術文化振興財団（H24.4.1公益財団法人に移行し名称変更）						
内容	芸術文化振興財団助成事業のうち、情報提供事業である「ほっとタウン」の発行にかかわるものである。 ・発行部数 76,500部 ・毎月1回新聞折込で区内全域に配布する。（朝日、読売、毎日、日経、産経、東京新聞 76,500部） ・荒川区内 駅スタンド、荒川区施設、一部コンビニエンスストアにて配布。 ・8ページ（平成18年度以前は年間で4ページが10回、8ページが2回・平成19～22年度 6ページ） ・オールカラー（平成18年度以前は中面モノクロ） ・平成26年広告掲載取扱要綱を一部改正し、広告区分を変更 広告料 大広告2・3・4・5・6・7面→ A 35,000円、B 70,000円、C 140,000円、D 35,000円、E 15,000円 8面→ A 40,000円、B 80,000円、C 160,000円、D 掲載不可、E 掲載不可 ミニ広告 1行（14文字）→ 600円						
経過	平成19年～22年度は6ページ、オールカラー 平成23年4月1日号より8ページ、オールカラー  《事業費推移》 平成21年度 19,037,340円 平成22年度 19,037,340円 平成23年度 16,997,400円 平成24年度 17,016,300円 平成25年度 17,292,504円 平成26年度 16,602,774円 平成27年度 16,595,135円						
必要性	芸術文化事業の情報提供に不可欠な情報誌である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 補助金の交付						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額		8,198	9,350	9,350	8,813	9,350	9,350	9,350
①決算額（28年度は見込み）		8,198	8,542	9,300	8,813	9,350	9,350	9,350
②人件費等		87	423	826	416	386	308	/
③減価償却費		29	156	323	169	163	137	/
【事務分担量】（%）		1	5	10	5	5	4	/
合計（①+②+③）		8,314	9,121	10,449	9,398	9,899	9,795	9,350
特定財源	国	0	0	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	8,314	9,121	10,449	9,398	9,899	9,795	9,350
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	大広告件数	105	120	120	98	97	90	95
	ミニ広告件数	163	127	94	70	89	68	70

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	ほっとタウン発行	9,350	負担金補助等	ほっとタウン発行	9,350	負担金補助等	ほっとタウン発行	9,350

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
①	芸術文化・地域振興事業来場者数	52,697	52,925	35,121	53,000	53,000	27年度はサンパール事業がないため、減少
②							
③							

問題点・課題 (指標分析)	広告収入の安定的な確保及び経費の効率的執行を検討し、さらなる魅力的な紙面作成の努力が必要である。						
	他区の実況 (実施 12 区 未実施 0 区 不明 10 区)						

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	引き続き広告収入の安定化を図ると共に、26年度に検討した改善案に基づき、新たな紙面内容での発行を開始する。	広告収入の安定化に努める一方、事業の魅力についての特集ページを設けるなど紙面内容の充実を図った。	引き続き広告収入の安定化を図るとともに、魅力的な紙面作成について研究、実践する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	区内の芸術文化振興のための情報提供に不可欠な情報誌発行事業である。

況 (要旨)	議会質問状
-----------	-------

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-01-15	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	芸術文化・地域振興事業（芸術文化振興財団費）	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課	課長名	佐藤	担当者名	榎
				内線	2521		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-02-03	芸術文化・地域振興事業費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 63年度		根拠				
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	01	芸術・文化の振興				
目的	サンパール荒川、日暮里サニーホール、ムーブ町屋などの区民ホールで、芸術文化事業を公演することにより、荒川区における芸術文化の振興と区民文化の活性化を図る。						
対象者等	公益財団法人荒川区芸術文化振興財団（H24.4.1公益財団法人に移行し名称変更）						
内容	芸術文化振興財団事業のうち、芸術文化及び地域の振興にかかわる事業に対する補助である。 [定期事業] 荒川区民交響楽団・第九演奏会、小泉定弘写真展、都電写真コンテスト 等 [その他事業実績] ・25年度 あらかわ舞台芸術創造プロジェクト「能×OPERA」、が～まるちよば「東京JACK」、春風亭小朝・三遊亭円楽二人会 等 ・26年度 五木ひろしコンサート、人形浄瑠璃「文楽」（一般鑑賞、学校鑑賞）、あらかわ手づくり市等 ・27年度 ARAKAWAクラシックBOX、親と子の舞台芸術シリーズ 舞台「おいしいのぼうけん」 等						
経過	平成24年度：公益財団法人に移行し名称変更（H24.4.1）。区民課にて施設使用料のみ負担（附帯設備はACCの負担）。 ARAKAWA1-1-1 ギャラリー開設（H24.6.1） 平成25年度：教育委員会との連携事業を実施。（汐入小学校にて授業内で能楽体験・全中学生を対象に文楽の鑑賞会） 平成26年度：自主事業で子ども向け演劇ワークショップを実施 平成27年度：サンパール荒川改修工事のため1-1-1ギャラリーを休止したほか、例年サンパールで開催してきた「荒川第九演奏会」を南千住第二中学校で、「フレッシュ名曲コンサート」を日暮里サニーホールで実施した。 平成28年度：1-1-1ギャラリーの再開（相談業務は町屋文化センターの窓口で実施）						
必要性	荒川区芸術文化振興財団の最も重要な使命である芸術文化事業実施のための補助であり必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 補助金の交付						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		33,250	46,196	45,637	45,184	45,184	27,319
①決算額（28年度は見込み）		30,220	45,196	27,995	29,501	24,591	18,101	45,184
②人件費等		87	423	826	416	386	308	
③減価償却費		29	156	323	169	163	137	
【事務分担量】（%）		1	5	10	5	5	4	
合計（①+②+③）		30,336	45,775	29,144	30,086	25,140	18,546	45,184
特定財源	国	0	1,000	0	0			
	都	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	30,336	44,775	29,144	30,086	25,140	18,546	45,184
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	チケット収入率（%）	42	42	46	33	39.5	26.8	30
	参加・体験型事業件数	9	11	23	22	29	20	30
	芸術文化・地域振興事業来場者数	32,381	41,557	52,108	52,697	52,925	35,121	53,000

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	芸術文化・地域振興事業費	24,591	負担金補助等	芸術文化・地域振興事業費	18,101	負担金補助等	芸術文化・地域振興事業費	45,184

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① チケット収入率（%）	46	39.5	26.8	35	35	自主事業収入額÷支出額(24年度以降支出額に会場費含まず)
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	荒川区の芸術文化振興の中心的担い手として、区民や団体の活動支援、区の将来を担う子どもたちを中心とした人材育成に貢献する事業を推進する必要がある。また、サンパール荒川のリニューアルを受け、さらなる事業を充実させ、1-1-1ギャラリーの有効活用も検討していく。						
	他区の実況	（実施 12 区 未実施 0 区 不明 10 区）					

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	次世代を育成する取り組みを推進するとともに、26年度の検討結果を踏まえ、実施する。	子ども向け演劇ワークショップ等、次世代を育成する取組を推進した。	新たな体験型ワークショップ等、次世代を育成する取組を推進する。
②	28年度のサンパール再開に向けて、ギャラリーで展開すべき事業内容と再設置後の具体的な運営形態等について検討を行う。	サンパール再開後のギャラリー運営について改善を図るほか、様々な既存事業について充実、改廃が可能か検討した。	事業の改善・見直しを図り、区民ニーズに応え、芸術文化振興のための人材育成に資する事業展開に努める。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
重点的に推進	重点的に推進	ACCの設立趣旨である、「荒川区における芸術文化の振興を図り、地域社会の発展と区民生活の向上に資する」ための事業実施に必要な補助である。

況議 （要 会 質 問 状）	
-------------------------------	--